

| 教育研究業績書 | | |
|----------------------------|---|---|
| 令和3年 5月 1日 氏名 室井 佑美 印 | | |
| 研究分野 | 研究内容のキーワード | |
| 保育学 社会福祉学 | 保育実習指導、子育て支援、保育内容、学習効果 チャイルドライフプログラム、病児への生活支援・発達支援、特別な配慮を必要とする子どもの生活支援 | |
| 教育上の能力に関する事項 | | |
| 事 項 | 年 月 日 | 概 要 |
| 1. 教育方法の実践例 ・保育ボランティア活動 | 平成 23 年 8 月 平成 25 年 8 月 | 独自の企画として、学生自身が現場を経験し保育の実際を学ぶ場として企画・指導した。 |
| ・実習報告会の開催 | 平成 24 年 11 月 平成 25 年 6 月 平成 25 年 10 月 平成 28 年 11 月 令和元年 11 月 | 保育実習に向けて現場での学びを1・2年生が深め合うために、こども福祉科全学生を対象に報告会を企画・指導した。 |
| ・学内運動会の企画・開催 | 平成 26 年 10 月 | 現場での行事を想定し、運動会の企画・運営手法を学ぶための指導を行った。計画の立案、子どもへの指導方法等、配慮点の理解が深まるよう指導を行った。 |
| ・七夕まつりの企画・開催 | 平成 27 年 7 月 平成 28 年 7 月 平成 29 年 7 月 令和元年 7 月 | 保育・幼児教育、福祉等の現場で実施される年中行事の企画・運営手法を学ぶための指導を行う。計画立案、組織運営、予算管理等の理解が深まるよう指導を行い評価した。 |
| ・はとやま子育てフェスティバルの企画・参加 | 平成 27 年 11 月 平成 29 年 11 月 令和元年 11 月 | 保育内容 B (H27.H29)、健康と人間関係の指導法 (R1) における授業の一環で鳩山町等主催の子育て企画に参加する。学生の行事運営および計画立案を視野に入れた指導を行う。また、子どもとの触れ合う中で遊びの展開に対する援助への理解を深めるよう指導した。 |
| ・動物飼育体験学習の企画運営、調整 | 平成 26 年 8 月 平成 27 年 8 月 平成 29 年 8 月 | 学生に対して埼玉県こども動物自然公園での小動物ふれあいコーナーで動物飼育体験学習の企画運営をした。飼育体験や子どもへの指導を実践するための企画・運営及び学生指導をした。 |

| | | |
|---|----------------------|---|
| ・鳩山町公立幼稚園及び東松山市私立認定こども園園外学習の企画・運営 | 平成28年11月 平成29年10月 | 基礎演習、スキルアップセミナー における授業の一環で山村学園短期大学の環境を用いた園外学習の企画・運営に参加する。学生の企画運営及び計画立案、当日の子どもに対する保育の指導を行う。 |
| 2. 教育上の能力に関する大学等の評価 実績における実習副委員長担当 | 平成24年4月 ～平成26年3月 | 福祉系資格を複数有する大学での助教、保育系専門学校での非常勤講師の経験を活かし、実習副委員長として実習体制、実習システムの安定した構築を図った。 |
| 学生授業評価 | 令和3年3月 | 令和2年度の学生による授業評価にて5段階評価で保育原理(4.36)、保育内容人間関係(4.41)、子育て支援(4.22)であった。 |
| 実績における教務委員長担当 | 平成31年4月 ～現在に至る | 教務委員会の経験を生かし、教務委員長として学内教務の運営、審議等を行っている。 |
| 3. 実務の経験を有する者についての特記事項 | 特になし | 特になし |
| 4. その他 ・報告書等 東洋大学ライフデザイン学部「地域子育て支援『子育てサプリ』による学生教育プログラムの実践」報告書 | 平成20年3月 (共同) | 中期目標・中期計画に係る教育プログラムとして地域に対して支援可能な専門知識・技術を備えた子育て支援専門職養成、地域の親子への支援を可能にするプログラム開発を展開した実践報告である。学生に対して環境構成を中心に指導し、その姿を観察して記録した。また、環境構成や配慮、留意点およびプログラムに参加された子どもと学生の関わりの様子について観察記録をした。学生の観察から具体的な成長を示し、感想から成長した部分を抽出して考察し、報告した。 【執筆担当：15頁-22頁、26頁-34頁、39頁-42頁、44頁-46頁、131頁、資料作成84頁-125頁】 |
| 東洋大学ライフデザイン学部「地域子育て支援『子育てサプリ』による学生教育プログラムの実践」報告書 | 平成21年3月 (共同) | 大学プロジェクト完成年度としての実践報告である。学生に対して環境構成を中心に指導した。加えて学生主体でプログラムの計画立案過程をファシリテートし、その姿を観察し記録した。また、学生の事前事後アンケートによる活動記録分析を行い、プログラム実践を経て保育技術や周囲との関係のとり方、保育技術の向上が図られたことを考察し、報告した。 【執筆担当：10頁-23頁、33・41・51・55・7頁、110頁-120頁、125頁、資料作成132頁-181頁】 |

| | | |
|--|-----------------------------|--|
| <p>東洋大学ライフデザイン学部「地域子育て支援『子育てサプリ』による学生教育プログラムの実践」報告書</p> | <p>平成 22 年 3 月 (共同)</p> | <p>大学改組後継続事業としての実践報告である。「子育て支援実践」という科目が新たに立ち上げ担当教員を中心に企画運営を行うための補助を行う。昨年度同様、学生主体でプログラムの計画立案過程をファシリテートし、その姿を観察し記録した。また、学生の事前事後アンケートによる活動記録分析を行い、プログラム実践を経て保育技術や周囲との関係のととり方、保育技術の向上が図られたことを考察し、報告した。 【執筆担当：13 頁-21 頁、24-30 頁、106 頁-113 頁、121 頁、資料作成 130 頁-164 頁】</p> |
| <p>東洋大学ライフデザイン学部『子育てサプリ』報告書</p> | <p>平成 23 年 3 月 (共同)</p> | <p>「子育て支援実践」担当教員を中心に、講義と演習を学生に教授した上で、「子育てサプリ」を展開する形態で行われた実践報告である。企画運営を行うための補助を行い、主に学生の感想等の集約を行った。 【執筆担当：119 頁-120 頁、資料作成 77 頁-96 頁】</p> |
| <p>・学会発表論文集 「学外での現場体験及び実習からの学びを通して『目指す保育者像』の変容～ボランティア体験から保育実習までの過程より～」</p> | <p>平成 24 年 9 月 (単著)</p> | <p>【全国保育士養成協議会 第 51 回研究大会 研究発表論文集】 江戸川大学総合福祉専門学校こども福祉科 1 年生を対象に、学生が求めている「目指す保育者像」について現場体験を経る前後でどのような変容があるかを明らかにするため自由記述の調査を行い、考察して論述した。(掲載 216 頁-217 頁)</p> |
| <p>「保育者養成における体験的学習による学習成果～教材「七夕まつり」の教育内容と実践過程に視点をあてて～</p> | <p>平成 27 年 9 月 (共著)</p> | <p>【全国保育士養成協議会 第 54 回研究大会 研究発表】 山村学園短期大学保育学科全学生を対象に、大学行事である七夕まつりにおける行事の企画・準備、運営や時間管理等実践について質問紙調査を行い、学習成果を考察して論述した。(CD-ROM内に掲載)</p> |
| <p>「保育者養成における体験的学習による学習成果(2)～教材「七夕まつり」の教育内容と五領域の総合性に視点をあてて～</p> | <p>平成 28 年 8 月 (単著)</p> | <p>【全国保育士養成協議会 第 55 回研究大会 研究発表】 山村学園短期大学保育学科学生を対象に、大学行事である七夕まつりにおける行事の実践について、五領域間の内容に対する総合性を数値化し、学習成果を考察して論述した。(CD-ROM内に掲載)</p> |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|--|---|
| 事 項 | 年 月 日 | 概 要 |
| 1. 資格、免許 保育士 社会福祉士 医療事務管理士 社会福祉士実習担当教員講習会修了 社会福祉士演習担当教員講習会修了 ダウン症赤ちゃん体操指導員 | 平成 15 年 3 月 平成 17 年 4 月 平成 18 年 1 月 平成 22 年 9 月 平成 22 年 12 月 平成 25 年 2 月 | |
| 2. 特許等 特になし | | |
| 3. 実務の経験を有する者についての特記事項 | 平成 17 年 4 月～ 平成 18 年 2 月 平成 18 年 2 月～ 平成 19 年 3 月 | 港区障害保健福祉センターこども療育事業 保育士 浅草病院医事課医療連携相談室ソーシャルワーカー |
| 4. その他 ・学生リーダーの統括・運営 ・学内ボランティアコーディネート ・済生会川口乳児院での研修外部講師 ・茨城県児童館連絡協議会主催第 3 回児童館等職員研修会講師 ・鳩山町子育て教養講座講師 | 平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月 平成 23 年 4 月～平成 26 年 3 月 平成 23 年 1 月 平成 24 年 1 月 平成 26 年 8 月 平成 27 年 12 月 平成 28 年 8 月 | 江戸川大学総合福祉専門学校独自の学生組織である「学生リーダー」の担当教員として、学生が企画・運営をする行事に対する指導を行っている。東葛地区の福祉系事業所への参加を依頼し、学園祭での物品販売や学生交流を企画した。また、東北地区の福祉系事業所の物品販売、募金を行い、東日本大震災に対する東北復興支援への寄付を行った。 江戸川大学総合福祉専門学校において地域の施設やボランティアセンターからボランティア依頼があった場合、学内での調整を行う。年間に約 80 件程のボランティア依頼があり、約 120 人を超える学生ボランティアの派遣を調整した。 「乳児院における多職種理解」をテーマに、専門職に関する業務とそれに伴う専門性について、グループワーク手法を用いながら研修を行った。 児童厚生員資格必須科目「健全育成論」の講師を行い、現在の日本における児童健全育成に関する法律、制度等について講義を行った 鳩山町子育て広場の外部講師として「新聞紙あそび」、「クッキング」等をテーマに、遊びの実践と育まれるものについて講義をした |

| | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県内県立高校での外部講師 ・子ども大学はとやまでの講師 ・小川町七夕まつり竹飾りコンクール出展 ・川越市私立幼稚園での外部講師 ・保育ボランティア養成講座での講師 | <p>平成 29 年 4 月 平成 30 年 4 月 令和元年 10 月</p> <p>平成 27 年 6 月 平成 27 年 12 月 平成 28 年 9 月 平成 28 年 12 月 平成 29 年 3 月 令和元年 6 月 令和元年 9 月 令和 2 年 8 月 令和 2 年 12 月 令和 3 年 2 月</p> <p>平成 27 年 7 月 平成 28 年 7 月 平成 28 年 8 月</p> <p>平成 27 年 7 月 平成 28 年 7 月 平成 29 年 7 月 令和元年 7 月</p> <p>平成 28 年 8 月 平成 29 年 3 月 平成 29 年 8 月 平成 29 年 12 月</p> <p>平成 29 年 8 月</p> | <p>羽生第一高校、川越総合高校、寄居城北高校、鳩山高校、飯能高校、山村国際高校、鶴ヶ島清風高校の「家庭科」「児童文化」「総合的な学習の時間」等授業時間内において、「子どもの発達と遊び」、「絵本の読み聞かせ」、「パネルシアター」、「保育・福祉関係職について」、「保育・幼児教育の職業について」の講義と演習を行った。</p> <p>小学校 4-6 年生を対象に鳩山町及び鳩山町教育委員会主催の「子ども大学はとやま」にて「乳児の発達」に関する講師を務めた。</p> <p>山村学園短期大学として、竹飾りの装飾をデザインし学生とともに地域活性化の一助として地域行事に参加した。</p> <p>子ども・子育て支援新制度の概要説明と幼稚園所在地と周辺自治体の子育て支援行政について講義及び演習を行う。さらに、平成 30 年に改定される幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に関する改定のポイントについて講義を行う。併せて新人研修を 2 回に渡り務めた。</p> <p>鳩山町社会福祉協議会主催のボランティア講座にて「今どきの子育て事情」をテーマに講師を務めた。</p> |
|--|---|--|

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著、共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
|---------------------------|---------|-------------|---------------------|--|
| (著書) 1 保育者養成シリーズ「相談援助」 | 共著 | 平成 24 年 3 月 | 株式会社一藝社 | 「保育とソーシャルワーク」を担当執筆した。法的根拠、保育所保育指針に基づいて、保育における相談援助、保育士の任務と相談援助、援助に関わる保育士の役割を概説した。【掲載 49 頁-62 頁】 |

| | | | | |
|------------------------------------|----|--------------|--------|--|
| 2 保育を学ぶ シリーズ 「保育内容・人間関係」 | 共著 | 平成 27 年 4 月 | 大学図書出版 | 第 7 章「領域」の相互関係と「人間関係」を担当執筆した。領域の相互関係と人間関係との位置付けを述べると共に、事例を交えて、子どもの育ちがどのように見られるかを述べた。【掲載 82 頁 -93 頁】 |
| 3 領域 人間 関係ワークブ ック | 共著 | 平成 29 年 10 月 | 萌文書林 | 領域「人間関係」のねらい及び内容における知識、事例における子どもの実態を背景に執筆した。子どもの人間関係の育ちを実感できるよう、主体的で協同的な学びが得られる課題や体験的な演習課題を設定した。【掲載 pp:22 ~ 23 , 37 ~ 41 , 47 ~ 49 , 58 ~ 59 , 66 , 72 ~ 73 , 78 ~ 79 , 85 ~ 87 , 93 , 99 ~ 100 , 113 , 119 , 126 ~ 127 , 134 ~ 136】 |
| 4 子育て支援 「子どもが育 つ」をともに支 える | 共著 | 令和 2 年 4 月 | 北樹出版 | 第 4 章：子ども・保護者が多様な他者と関わる機会と場の提供及び第 5 章：保育士として子育て支援を行うために-自己理解・他者理解-を担当執筆した。 子どもや保護者が出会う多様な他者の存在と保育者が専門性を発揮する機会や場の提供について述べた。また、保育士として子育て支援を行うための自己理解・他者理解について概説し演習課題を設定した。 |
| 5 子ども家庭 支援論 | 共著 | 令和 2 年 5 月 | 北樹出版 | 第 6 章：保育士による地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力、第 8 章：保育所等を利用する子どもの家庭への支援について担当執筆した。 地域の資源、連携と協力について概説し、保育士がどのような連携・協力を行っているのかを、実際に踏まえながら述べた。また、保育所等を利用す子どもの家庭への支援とし |

| | | | | |
|---|-----------|---------------------|------------------------------------|---|
| <p>6 領域 環境 ワークブック- 基礎理解と指 導法-</p> | <p>共著</p> | <p>令和2年8月</p> | <p>萌文書林</p> | <p>て、子育てを行う保護者の負担や悩み、保育所等での多様な支援の展開と関係機関との連携について述べた。</p> <p>第3章:人的環境と関わり-保育者の役割-、第10章:文化や伝統、行事などに親しむ、について担当執筆した。子どもを取り巻く様々な環境に対して、出会う人的環境を説明した。また、子どもを取り巻く文化や伝統、行事などの具体例から、領域「環境」との関連性、保育の場における年中行事と子どもの中で育つものを述べた。さらに、環境のねらいと内容に対する子どもの育ちを実感できるよう、主体的で協同的な学びが得られる課題や体験的な演習課題を設定した。</p> |
| <p>(学術論文) 1 . チャイルド・ライフ・プログラムの内容と展開</p> <p>2 . 次世代育成支援行動計画からみる事業所内保育施設の施策展開 - 埼玉県および埼玉県内自治体を中心に -</p> | <p>単著</p> | <p>平成 20 年 12 月</p> | <p>全国保育問題研究協議会『季刊保育問題研究 234 号』</p> | <p>本論文は病気を持つ子ども、特に入院児に対して療養環境や治療に伴うストレスや不安に対処できるよう援助し、年齢相応の成長発達することを支援するチャイルド・ライフ・プログラムを論述した。日本では 21 ヶ所の医療機関が展開し、子どもを一人の価値のある存在として視点の中心に置き、権利主体とした支援実践であることを論述した。</p> <p>【掲載 140 頁 - 151 頁】</p> |
| | <p>単著</p> | <p>平成 21 年 3 月</p> | <p>明研図書『子どもの健康福祉研究第 8 号』</p> | <p>本論文は次世代育成支援対策推進法施行により策定された次世代育成支援行動計画(以下、行動計画)について、埼玉県と埼玉県内自治体の行動計画を取り上げ、行動計画の中での策定内容、事業所内保育施設(以下、保育施設)に関する施策状況を明らかにした。その結果、1) 保育施設の設置に関わる計画策定の地域性、2) 自治体行動計画の保育施設に関する内容、3) 保育施設設置の責任の所在、4) 埼玉県およびさいたま市の保育施設設置への経済的補助、5) 保育施設の設置目的という点を考察した。</p> |

| | | | | |
|---|----|-------------|-------------------------------|--|
| 3. ライフデザイン学部の福祉系実習の実習共通基盤のための教育方法開発に関する研究 | 共著 | 平成 22 年 3 月 | 東洋大学ライフデザイン学部『ライフデザイン学研究 6 号』 | 【掲載 63 頁 76 頁】 本研究では学外実習の特徴をとらえ、複数資格養成施設として実習教育に必要な点の明確化を目的とし、実習施設と養成施設の両側面から調査を行い、考察を論述した。【掲載：251 頁 - 254 頁】 |
| 4. チャイルド・ライフ・プログラムによる子どもを主体とした支援に関する一考察～小児医療現場でのディストラクションに焦点をあてて～ | 単著 | 平成 22 年 3 月 | 東洋大学ライフデザイン学部『ライフデザイン学研究 6 号』 | 本論文では、日本でのチャイルド・ライフ・プログラムおよびホスピタル・プレイにおけるディストラクションという支援を通して、活動の現状を把握し、業務としてシステムを構築するための課題や問題点を考察することを目的とした。質問紙調査および面接調査を実施し、1) プログラムを展開する専門職中心の介入、他職種が連携・協働活動の必要性、2) 子どもが苦痛・不安になる状況での専門職による直接的介入と実践の必要性、3) 徹底した子どもの立場からの関わり、4) 全人格的な人間観に立脚した子どもの最善の利益を保障する活動が示唆され、5) 業務システムにおいて専門職アイデンティティ明確化の困難性、6) 子どもを主体とした支援の普及、啓蒙活動の必要性が課題として挙げられた。 【掲載 173 頁 - 196 頁】 |
| 5. 形態素解析を用いた幼稚園教育実習における実習成果と課題に関する研究 | 共著 | 平成 27 年 3 月 | 山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第 26 号』 | 本研究では、教育実習が学生にとってどのように機能しているかを責任実習における主活動から明らかにし、その問題点や改善点を見いだすことを目的とした。形態素解析を用いた結果、子どもの自主的な k 集う、取り巻く環境を詳細に考える必要性、子どもの個人差を共有しながらさらなつ対応と工夫の追求の必要性が示唆された。 |
| 6. 保育者養成 | 単著 | 平成 27 年 3 月 | 山村学園短期大学保育 | 本研究では、大学行事である七夕 |

| | | | | |
|--|-----------|----------------|-------------------------------------|---|
| <p>における体験的学習による学習成果と展望 教材「七夕まつり」の教育内容と実践過程に視点をあてて</p> | | | <p>学科『山村学園短期大学紀要第26号』</p> | <p>まつりに焦点をあて、学生に対して質問紙調査を行い、その結果から学生の獲得した学習成果を考察し、論述した。【掲載131 - 144頁】</p> |
| <p>7. 保育者養成校における保育内容「人間関係」教授法の一考察</p> | <p>共著</p> | <p>平成28年3月</p> | <p>山村学園短期大学保育学科『山村学園短期大学紀要第27号』</p> | <p>本研究では、保育者養成校における保育内容領域「人間関係」の科目郡を抽出し、抽出された単語の特徴を明らかにした。【掲載73 - 83頁】</p> |
| <p>8. 「保育者養成における体験的学習による学習成果(2)～教材「七夕まつり」の教育内容と五領域の総合性に視点をあてて～</p> | <p>単著</p> | <p>平成28年8月</p> | <p>全国保育士養成協議会第55回研究大会研究発表論文集</p> | <p>山村学園短期大学保育学科学生を対象に、大学行事である七夕まつりにおける行事の実践について振り返り、子どもに育まれる領域を具体的な姿として文章に示し、五領域間の内容に対する相互関連性や総合性を明らかにし、学習成果を考察して論述した。(CD-ROM内に掲載)</p> |
| <p>9. 「気になる幼児」の保育を支えるよう陳教諭の資質と地域における特別支援教育の仕組み：関西地区K市とA市における聞き取り調査から</p> | <p>共著</p> | <p>平成30年1月</p> | <p>保育教諭養成課程研究会『保育教諭養成課程研究第3号』</p> | <p>本報告では、「気になる子」に対する保育及び障害のある幼児の保育の実態を解明し実践上の方策を追求することを研究課題として継続した取組をしており、その追加調査の結果及び得られた地域の公的な仕組みに関する資料を中心に考察を行った。幼稚園教諭の資質の向上及び幼児期の特別支援教育の推進に寄与する資料を提供している。【掲載17頁 - 27頁】</p> |
| <p>10. 地域子育て支援イベントでの保育実践による学生の学習効果に関する一考察～はとやま子育てフェスティ</p> | <p>共著</p> | <p>平成30年3月</p> | <p>山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第29号』</p> | <p>本稿は、地域による子育て支援イベントを企画運営した学生の学びの効果を振り返りから、計量テキスト分析にて結果を出し、考察をした。学生自ら企画運営することで当事者意識が芽生え、活動を通して主体的に子どもを理解しようとする、希少性を子ども</p> |

| | | | | |
|---|-----------|--------------------|---|---|
| <p>パル「山村にんにん忍者塾」のふりかえりレポートから～</p> | | | | <p>に加える機会のテーマや機会、遊びの重要性を捉えていることが明らかになった。 【掲載：pp77～85】</p> |
| <p>11. 特別支援に配慮したこれからの保育者養成カリキュラムをめぐって</p> | <p>共著</p> | <p>平成 30 年 3 月</p> | <p>武蔵野短期大学『武蔵野短期大学研究紀要第 32 輯』</p> | <p>本稿では幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び教育職員免許法施行規則の改正に伴う教育課程コアカリキュラム策定の状況にかんがみ、特別支援教育に配慮した保育者養成についてのカリキュラムのあり方を検討した。特別支援に関わる他の専門職資格・免許-養成時カリキュラム等の相違点と共通点-をテーマに論じた。【掲載 47 頁-56 頁】</p> |
| <p>12. 障害のある子を含む保育のカリキュラム・マネジメントをめぐって</p> | <p>共著</p> | <p>平成 31 年 3 月</p> | <p>関東学院大学人間環境学部・人間共生学部・栄養学部・教育学部『人間環境学紀要第 30 号』</p> | <p>本稿では、障害等がある子どもたちを含みながら、どのようによりよい保育を展開すべきかについて、今日的に話題となっている「カリキュラム・マネジメント」の観点から検討した。筆者はカリキュラムとその保育全体を、子ども達に合わせ整備・調整・改善するための組織、運営について調査し、事例を通して明らかになったことを考察して論じた。【掲載 79 頁-95 頁】</p> |
| <p>13. 防災教育の観点に立った幼児及び保育者の防災キャンプの事例検討：領域「健康」「人間関係」「環境」を主とした保育実践モデルの構築</p> | <p>共著</p> | <p>平成 31 年 3 月</p> | <p>淑徳大学短期大学『淑徳大学短期大学部紀要第 59 号』</p> | <p>本論文は、幼児期の防災教育を保育内容の一領域に限定することなく、子どもの関心を高め、表現活動や疑似体験を通じた発達を促す実践として考察を加え、保育内容における位置づけを検討した。</p> |
| <p>14. 特別な配慮を必要とする幼児を含む教育・保育の実践課題に関する</p> | <p>共著</p> | <p>令和 2 年 3 月</p> | <p>令和元年度文部科学省委託「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」特別な配慮を必要とする</p> | <p>本報告は文部科学省委託研究事業である。全国の幼稚園等に質問紙による量的調査、実地訪問による質的調査を行った。特別な配慮を必要とする幼児の現況と幼稚</p> |

| | | | | |
|--|-------------------------------|--|--|--|
| 実態調査 | | | 幼児を含む教育・保育の実践課題に関する実態調査報告書 | 園等で行われている保育・支援体制、指導の現況を示し、今後求められる特別な配慮を必要とする幼児に対する学びの場や機会の充実及び、園内での支援体制の充実と幼児教育ならではのクラス運営・園運営の特性、保護者支援への考察をした。また、実地訪問協力園における参考となる事例を14園取り上げ、実情と工夫や実際に働く教師の困難感とその解消につながる試みを考察した。 |
| <p>(研究ノート)</p> <p>1「チャイルド・ライフ・スペシャリストが勤務する医療機関の現状と課題」</p> <p>2「保育士養成課程を持つ専門学校における保育実習の状況に関する一考察～江戸川大学総合福祉専門学校保育士養成課程開設時からの経過～」</p> <p>(その他)</p> <p>1「地域子育て支援『子育てサプリ』による学生教育プログラムの実践」</p> | <p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> | <p>平成21年3月</p> <p>平成24年3月</p> <p>平成20年3月</p> | <p>東洋大学ライフデザイン学部『ライフデザイン学研究5号』</p> <p>江戸川学園『江戸川学園人間科学研究紀要第28号』</p> <p>東洋大学ライフデザイン学部「子育てサプリ」報告書</p> | <p>本稿では日本で活躍するチャイルド・ライフ・スペシャリストが勤務する医療機関について現状を把握した。医療機関の経営主体、規模、地域性を調査し、現状における課題を論じた。【掲載207頁 - 217頁】</p> <p>本稿では、勤務校保育士養成課程での実習状況を把握した。実習施設の地域性、実習施設受入れの開拓状況、実習施設種別の特色について調査し、開設時からの実態を考察をした。その上で、今後の実習指導に向けた課題を論じた。【掲載127頁 - 146頁】</p> <p>地域に対して支援可能な専門知識・技術を備えた子育て支援専門職養成、地域の親子への支援を可能にするプログラム開発を展開した実践報告である。学生に対して環境構成を中心に指導し、その姿を観察して記録した。また、人的環境や物的環境を構成する上での配慮、留意点およびプログラムに参加された子どもと学生の関わりの様子について観察記録をした。学生の観察から具体的な成長を示し、感想から成長した部</p> |

| | | | | |
|--|-----------|--------------------|---------------------------------|--|
| <p>2 「地域子育て支援『子育てサプリ』による学生教育プログラムの実践」</p> | <p>共著</p> | <p>平成 21 年 3 月</p> | <p>東洋大学ライフデザイン学部「子育てサプリ」報告書</p> | <p>分を抽出して考察し、報告した。 【掲載 pp : 15 ~ 22 , 26 ~ 34 , 39 ~ 42 , 44 ~ 46, 131】</p> <p>大学プロジェクトの実践報告である。学生に対して環境構成を中心に指導した。加えて学生主体でプログラムの計画立案過程をファシリテートし、その姿を観察し記録した。また、学生の事前事後アンケートによる活動記録分析を行い、プログラム実践を経て保育技術や周囲との関係のとり方、保育技術の向上が図られたことを考察し、報告した。 【掲載 pp : 10 ~ 23, 33, 41, 51, 57 , 110 ~ 120, 125】</p> |
| <p>3 東洋大学ライフデザイン学部「地域子育て支援『子育てサプリ』による学生教育プログラムの実践」</p> | <p>共著</p> | <p>平成 22.3 月</p> | <p>東洋大学ライフデザイン学部「子育てサプリ」報告書</p> | <p>学生主体でプログラムの計画立案過程をファシリテートし、その姿を観察し記録した。また、学生の事前事後アンケートによる活動記録分析を行い、プログラム実践を経て保育技術や周囲との関係のとり方、保育技術の向上が図られたことを考察し、報告した。 【掲載 pp : 13 ~ 21, 24 ~ 30 , 106 ~ 113 , 121】</p> |